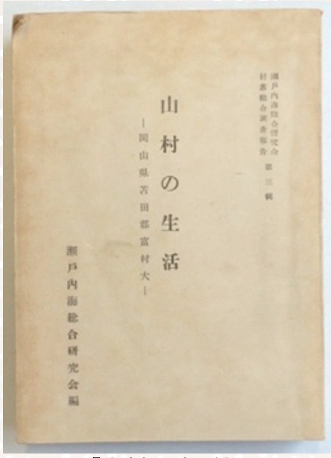
シリーズ 第77回

地域研究のさきがけ

戦後間もない昭和二十四年（一九四九）八月、アメリカのミシガン大学日本研究所長ロバート・バーネット・ホール教授が岡山を訪れ、ミシガン大学日本研究所の現地分室を岡山に設置することが決定し、各分野の研究者による共同研究として、瀬戸内海沿岸の総合的な調査が行われることとなりました。

こうした研究方法は、当時の日本では画期的なものであったため、これに触発された開学間もない岡山大学でも、この分室にタイアップすると共に、新制大学としての使命に応えるために研究団体を結成するべきだという機運が高まり、「瀬戸内海総合研究会」が組織されました。

この瀬戸内海総合研究会で力を注いだのは、農・山・漁村の総合調査で、そのうち山村の調査対象地域となったのは富村の大地区でした。この調査は、昭和二十七年（一九五二）から、歴史学・考古学・地理学・社会学・法制史・農業経済学・民俗学・言語学・教育学・人類学・地質学・動物学・植物学・林学・畜産学・医学・建築学などさまざまな分野の研究者が合宿して合同で現地調査が進められ、その成果は昭和三〇年（一九五五）に『山村の生活』としてまとめられました。

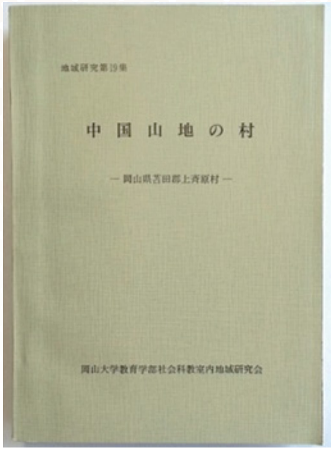


『山村の生活』

『鏡野町綜合調査報告書』と『鏡野の歴史』

このような、平均的な山村集落を対象とした詳細な調査は、当時の学会の注目を集め、その後も様々な形での共同研究を生み出すきっかけとなりました。

そして、昭和二十七年に発足した鏡野町でも、新町の産業振興策定のための基礎的な調査を実施するため、町と岡山大学で鏡野町綜合（そうごう）調査を実施するため調査団を結成しました。この調査では、基礎班・歴史班・農業班・地方行財政班に分かれ、町民も多数参加して、昭和三十二～三十四年（一九五七～一九五九）まで調査が行われ、昭和三十六年に『鏡野町綜合調査報告書』が刊行されました。この綜合調査によって、町の歴史や戦後の農村の実態が明らかになり、学術的にも高く評価されただけではなく、町民の郷土史への関心を高め、町の振興計画の策定に大いに役立つことになりました。そして、この取り組みは町学校教育研修所による『鏡野の歴史』の刊行（昭和三十七年）に至り、子供たちの歴史・文化財に対する意識の向上へとつながりました。



『中国山地の村』

上齋原村でも、昭和四十九年（一九七四）に岡山大学教育学部の地域研究会が村内の自然・歴史・産業・社会構造・教育などを調査し、『中国山地の村』（昭和五十一年刊）としてまとめられ、村の実態を総合的に理解することができる貴重な資料となりました。

こうした地域研究は、戦後の様々な価値観が変わる中、そして高度経済成長期の古きものへの関心が薄れる中で、失われつつあった地域の歴史を記録し、その歴史を踏まえた上での現状を把握し、将来の発展への構想につなげるという、町づくりの根幹となるものの基礎資料をまとめたという点では、非常に意義深いもので、その成果は後の町村の行政運営にも大きな影響を与えています。

参考資料：『岡山県史』現代Ⅰ、『山村の生活』、『鏡野町綜合調査報告書』、『中国山地の村』、『鏡野町史』通史編

生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

2016年10月号　第140号　毎月1日発行
〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/